

令和7年10月

大野市教育委員会定例会
会議録

日 時：令和7年10月21日（火）午後4時00分～午後5時00分

場 所：大野市役所 大会議室

大野市教育委員会 10月定例会 次第

令和7年10月22日（火）午後4時00分～
大野市役所 大会議室

1 開会

会議録署名人 松田委員 松谷委員

2 9月定例会の会議録の承認について

3 教育長重要事項報告

4 議事

議案第58号 令和7年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検評価報告書案について

5 付議事項

1) 令和7年9月第446回大野市議会定例会の結果について

資料1

6 その他

1) 学校訪問について（振り返り）

2) 11月の行事予定について

資料2

・定例教育委員会 11月12日（水）午後3時30分～

大野市役所 大会議室

3) 9月の業務報告について

資料3

4) その他

7 閉会

<出席者>

	教育長	久保俊岳
	委員	馬道保
	委員	松谷由美
	委員	松田輝治
	委員	羽生たまき
事務局（説明者）	事務局長	山崎勝彦
	教育総務課長	土蔵郁代
	学校教育審議監	山川龍一
	こども支援課長	岡吉男
	生涯学習・文化財保護課長	佐々木伸治
（書記）	教育総務課企画主査	富士根麻裕

<傍聴者>

なし

【開会】

【教育長】 ただいまから大野市教育委員会10月定例会を開会する。

【教育理念唱和】

【会議録署名人】

【教育長】 本日の会議録署名人は、松田委員、松谷委員に願います。

【9月定例会教育委員会会議録の承認について】

【教育長】 事前にお送りした会議録案について、ご意見、ご質問等があれば願います。

——<意見・質問なし>——

【教育長】 9月定例会会議録については事務局からの提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】 事務局の提案どおり承認する。

【教育長重要事項報告】

【教育長】 本日は「図書館まつり」を通して読書活動についてお話しする。

10月18日土曜日に図書館まつりが開催された。平成30年度に第1回を開催して以来、今回が8回目となる。参加者の推移をみると、第1回1,257人、第2回1,950人、第3回2,200人、第4回2,275人、第5回2,161人、第6回2,631人、昨年度の第7回が1,932人、そして今年の第8回はなんと3,096人となった。コロナ禍や天候不順等の要素はあったものの、順調に多くの参加者数を維持している。

内容を見ると、第1回は古本市や絵本の読み聞かせなど9事業であった。第2回はオカリナ演奏や百人一首トーナメントなどを新しく加え、13事業になった。その後も内容を見直しながら、本年度は17事業を展開している。特に、第2回より大野ライオンズクラブには、ふるまいそばやトートバッグ作りなど多大なご協力いただいております、心より感謝申し上げます。今回はダンスステージを企画いただき、あおはるマルシェとともに隣の有終公園会場を大いに盛り上げていただいた。図書館まつりは、今や子育て世帯をはじめ多くの参加者を集める一大イベントとなっており、市民の読書活動の推進に大きく貢献している。

大野市図書館キャラクターとしてすっかり定着している“おとしょちゃん”は第3回から登場している。今回は10月に完成したできたての“おとしょちゃんかるた”が登場した。取り札を拡大して、2階の会場いっぱいに広げて実施した。取り札の絵にも読み札の文にも、図書館職員をはじめ投稿いただいた方々の熱い思いが詰まった秀逸な作品に仕上がっている。今後、学校や認定こども園に配布し、多くの子どもたちが読書に関心をもってもらえるよう広く活用していただく予定である。

現在進めている第4次大野市こども読書計画が4年目を迎えている。先般開催された子ども読書推進協議会において、次期計画に向けた準備に取り組むことが確認された。今後の一連の取組と研究を通し、時代に即した大野市にふさわしい読書活動のあり方を追及したい。

【議事】

【教育長】議案第58号 令和7年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検評価報告書案について、事務局の説明をお願いします。

——<教育委員会事務局長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【羽生委員】毎年、取りまとめいただき感謝申し上げます。最後の方に登場されている学識経験者の方々からは本当に丁寧にチェックをしていただき、ご意見ご提案をいただけることにありがたいと感じている。その中で、「前回もご指摘しましたが」というふうに指摘をされている項目もいくつか見受けられたので、できないことはあるかもしれないが、客観的にご意見ご提案いただいている非常に貴重なものなので、できる限りその意見を反映していただいて次年度に繋げていけたらいいと思った。

1点だけちょっと文字の間違いが見られたのでお伝えする。タブレット版の資料の64ページに、学識経験者の福田さんのお言葉が載っているが、下から3行目の「中高生などの大野で育つ」の「生」が「性」となっている。大変失礼かなと思うので直していただきたい。

【教育委員会事務局長】ご意見いただき感謝申し上げます。今から当初予算の編成時期を迎えるので、いただいたご意見で反映できるところはしっかり反映させたいと思う。

【教育長】貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。他の委員さんはよろしいか。それでは、議案第58号について、先程のご指摘の修正をしていただき、事務局の提案通り承認する。

【付議事項】

【教育長】付議事項1) 令和7年9月第446回大野市議会定例会の結果について、事務局の説明をお願いします。

——<教育委員会事務局長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】付議事項については、以上とする。

【その他】

【教育長】その他1) 学校訪問について（振り返り）について、事務局の説明をお願いします。

——<教育総務課長説明>——

【教育長】今後の参考にもさせていただきたいので、忌憚のないご意見をいただ

けるとありがたい。

【松田委員】全体を通してということなので感想を申し上げさせていただくと、各学校の校長先生のお話を聞いて校内を歩くのが時間的にはそんなに長くないので、もし問題があるなら学校のどこに問題があるかと思いながら回ったが、この問題というか、学校の弱いところというのがどうしても見つけられなかったので、何か違う視点でご説明があればいいなと思った。

それで、全体の感想としては、各学校とも校長先生のすごい熱意が伝わってきた。特に中学校では、ものすごく熱い個性ある校長先生と、もう1人は柔らかく太陽みたいに包み込んでくださる校長先生で、どちらの学校も歩いている途中、生徒さんが「こんにちは」と挨拶もしてくれたし、学校がそんなに荒れているという感じは、私自身はしなかった。

それから、小学校の方については、クラス数の多いところと少ないところで違いがあり、複式学級を目指してもらうとなかなか難しいところがあるのではないかと感じた。どういうふうに難しいのかを具体的に言うと、たくさん人数がいる学級では先生の方を向いていると話ができるが、複式学級の方は本当に先生と生徒が1対1か1対2なので、たくさん的人数の中で自分自身の意見を切磋琢磨する機会が奪われるのではないかなという感想を持った。

全体的には、特に阪谷小学校では「阪谷愛」というTシャツを着て、教頭先生もものすごく張り切っていて、それだけ子どものために張り切って頑張るんだという気持ちを各先生方が持っていてくださるということに非常に安心感を持った。

【教育長】1つちょっと教えてほしい。先程、違った角度からの説明があると良かったというようなことをおっしゃったが、もう少し詳しく教えてほしい。

【松田委員】校長先生からの説明は、学校の向かっていく目標とか、いろいろな面でいいところを伸ばしていこうという説明もあったが、学校で今困っていることや弱点を教えてもらえると良かった。下庄小の校長先生からお願い事があったように、学校を運営するに当たって、やっぱりこういうところがちょっと弱い部分があるので、例えば、今教員の数が少ないのなら率直にこういうふうにしてほしいとおっしゃっていただいた方が、教育委員会の委員としては受け止めやすいと思った。

【教育長】なるほど。了承した。本当にその通りである。

【馬道委員】まず印象に残っているのは、各校長先生の性格というか、個性が学校経営に表れているなと思った。

それから、地域の自然を生かしてうまく学校経営に取り入れている学校がたくさんあった。特に村部の小規模校においては、その土地の伝統文化や自然をうまく取り入れ、その地域の方々とうまく協力し合いながら上手に学校経営に取り組んでいると感じた。

それから、校時表の工夫で業務改善がうまく進んでいる学校も印象に残っている。ちょっと変えるだけで随分、長時間労働が解消されているなと感じた。

また、これまでだと管理職は2～3年で変わっていたが、最近は5年程ずっと同じ学校で勤務されているというイメージがある。やはり長い間同じ学校にいと、その中でどんどんと良い方向に改善できるので、2年おきに学校訪問をしているが、随分良い方向に変わっている学校があつて、長い期間勤務するのもいいことなんだなと感じた。

最後に、統合される学校については、すごく設備も良くなっているし、学校も綺麗になっているが、そうでない学校は雨漏りがするとか床がべこべこするという事情を聞いて、取り残されている学校もあってちょっと差を感じてしまった。順番もあると思うが、統合されない学校もちゃんと見ていってほしいなと思った。

【松谷委員】私からは何点かあるが、まず最初に教科担任制というのが私はとても印象深かった。小学校と中学校の連携もあるし、学校の中でも、学年で同じ先生が違った学年を見るということで、クラスも変えながらという学校もあったが、そうやって縦にも横にも目を配らせることができるというのが利点だなと思って印象深かった。

そして、再任用の先生のご活躍がとてもあたたかく感じた。若い世代の先生もいろいろ聞きたいことがあると思うし、迷っていることもあると思うが、そこをうまくキャッチしていただけるような雰囲気があった。そして、授業の内容も、子どもたちには何が必要か、どこまでレベルを上げたらいいか下げたらいいかということもよく考えていらっしやって、やっぱり長年教育されていたそのノウハウが表れていて、私もとても参考になるし、子どもたちも心強いのではないかと思った。

2年前に訪れた時よりも、各校長先生・教頭先生の連携の学校づくりが発展しているという印象を受けた。明るく見通しが良くなっているような、そして校長先生がおっしゃる希望を何とか教頭先生も汲み取って形にしていたり、意気込みなども見て取れる学校もあった。またこの先2年後に拝見するときにはどう変わっているのかと期待したいと思う。

そして、いろいろな意見を子どもたちに述べさせるような授業も行っていたし、それを喜んで発言している子どもたちもいたし、中にはしっかり聞いている子もいろいろなタイプの子がいたが、子どもたちに負担とならないような授業の配慮も必要かなと思った。逆に伸ばせる能力はどんどん伸ばしていけるような、もっとすみずみまで目を配っていけるような教育を目指していけるといいなと思った。この大野市ならではのコンパクトなネットワークの教育の中で、特色のある大野の教育方針というのを目指していただきたい。

【羽生委員】ほとんど思いついたことを先の委員さんがおっしゃられたので、ちょっと被る点もあるかもしれないが、私にとっては、隔年ではあるが実際にお声を聞いて見せていただくというのが、今やはり非常に大事だなと改めて思った。

特に印象深かったのは、「けテぶれ」サイクルによる学習力アップ、それから若い先生方を中心にした「自由進度学習」、それが自主サークルと西校と教育委員会とコラボですごく進んでいるっていうのを授業の中でも感じて、今後非常に大きな期待ができるなと思った。反面、若い先生方が一生懸命になりすぎて、勤務時間が超過しすぎないようにまた配慮していただけたらなと思う。新たな授業の取組を見せてもらったので、私にとっては非常に大きな意義のある学校訪問だった。

そして、松谷委員さんもおっしゃられたが、やはり18年をつなぐ教育というのが謳われてからだいぶ経つが、学校の現場の中で拡充してきていると感じた。教科担任の枠を超えて、同列の横の学年あるいは縦の学年で同じ先生が同じ教科を組むことで、学習力や習熟度をアップしているということもそうだし、

そのおかげで働き方改革もちょっと良い方向に向いているということもお聞きした。幼・保・小の連携はもちろんだが、今度再編する学校同士の交流会とか、小学生と高校生とのイベントも組まれていたので、本当に枠を超えて、小・中・高全部、大野で大きな学校というようなイメージを実感として持てたのは非常に大きかった。

気になった点は馬道委員と同じで、再編された学校の方、特に中学校は校舎も同じ色、内装も同じ統一感があって、いろいろな問題はあるにしても、すごく活気にあふれているな、明るいな、新しいなという印象を受けた。一方で、和泉小学校は中学部分が抜けてしまったということで、先生の数も減ったし、校舎内や校庭、施設の維持管理が教職員全員でしているがなかなか追いつかないというご苦労も聞いた。来年度、小学校の再編が行われるが、そういう点を踏まえていただいて、再編に該当する学校も、再編に外れる学校もなるべく良い方向に進めていただければと思った。

また、多くの小中学校の校舎では、本当に学校が学習の場ということもあるが、地域の拠り所、災害時の避難所ということも含めると、何枚張りかの開き戸でバリアフリー化が進んでいて、すごく開放的でオープンで明るいという印象を受けた。ただ、滅多にないとは思いますが、防犯という意味で見た時に、どこでシャットアウトするのか、間に合うのかというような不安が巡った。不審者が入ってきた時、また人ばかりではなく最近では熊がこのこ入ってきたりもしているので、そこがちょっと怖いかなと感じたので、防犯の訓練等で十分にシミュレーションも併せてしていただけるといいと思った。その2点が気になった点である。

相対的には、自分の中では非常に実感を得ることが多い4日間だったので感謝申し上げる。

【教育長】 いろいろな角度からご意見をいただき本当に感謝申し上げます。また近々校長会等があるので、委員さんの印象を説明していきたいと思う。きっとみんな喜ぶと思う。

私も同行させていただいたが、どの学校も柔らかい雰囲気为学校ばかりだったかなと喜んでいる。時には動の活気、時には静の活気が共存していたのではないかなと思う。ここ数年、魅力ある学力づくりということで、確かな学力、そして安心して通える学校を目指して、いろいろ研修会等も含めて全学校でがんばってきたところである。

総合計画が令和8年度から後期に移っていく。再編も一区切りするところに来た。児童生徒そして教員も含めて、今度はウェルビーイングな学校、職場であるように、そしてまた地域の中に愛される学校を目指して進めてまいりたいと思うので、いろいろとまたご協力いただきたい。

その他1)については、以上とする。

その他2) 11月の行事予定について、事務局の説明をお願いします。

――<各課長説明>――

【教育長】 ご意見、ご質問等があればお願いします。

――<意見・質問なし>――

【教育長】 その他2)については、以上とする。

その他3) 9月の業務報告について、説明は省略するが、ご意見、ご質問等があればお願いします。

——〈意見・質問なし〉——

【教育長】その他3)については、以上とする。

その他4) その他で、事務局から何かあるか。

【教育委員会事務局長】先日の和泉小学校での暖房設備の過剰使用による電気使用量の増加について、教育総務課長から説明させていただく。

【教育総務課長】以前に、資料はタブレットに送らせていただいたが、改めてご説明をさせていただきたい。

今回の事案は、今月6日に教育総務課の方で小・中学校の電気料金を確認した際に、和泉小学校の5月から9月までの電気使用量が前年度と比較して非常に多いことがわかり、和泉小学校へ状況を確認して判明したものである。

電気使用量が増加した原因は、毎年4月下旬頃に電源を切っている床暖房と、体育館のたてどい凍結防止用ヒータの電源を入れたままとしていたことである。このことにより増加した電気料金は180万円と試算している。

事案の原因と経緯についてご説明させていただく。和泉小学校は、冬になると、蓄熱式暖房設備や床暖房設備などの電源を入れて、暖かくなる4月下旬頃に電源を切る。今年も4月下旬に、蓄熱式暖房設備の電源を切ったが、床暖房と体育館のたてどい凍結防止用ヒーターの電源を切ることを失念してしまった。たてどい凍結防止ヒーターというのは、体育館の北側壁の樋に設置しているもので、雨樋の凍結による詰まりや破損を防ぐものである。床暖房設備は、校舎2階にある図書コーナーやパソコンコーナー、畳コーナーの床に整備をしている。各コーナーは一続きで壁がないオープンフロアとなっている。

今回の事案の原因としては、1つにオープンフロアや屋外という場所で、暖房がついていることを体感的に感じにくい状況だったということがある。また、暖房施設の管理や作業は、担当教職員が1人で行い、複数で確認・作業する体制ではなかったということ、本業務の管理マニュアルは作成していたが、今年マニュアルを見ずに作業を行い、それで必要な作業は完了したと認識していたということ、また床暖房設備の操作制御盤の表示パネルに、「停止」を示す緑色ランプが点灯しているのを教職員が見て、それで床暖房機の電源は切れていると判断したということ、また電力会社からの毎月の通知は教育総務課にあり、学校では電気使用量が多いことに気づけなかったということ、これら複数のことが重なり本事案が発生したと考えている。

再発の防止に向けては、学校施設の暖房設備の入り切りは管理マニュアルに合わせて、管理チェック表を作成し、複数の職員で管理し、最終報告を校長に行うようにする。また、教育総務課は、毎月の電気料金の情報を、学校に提供し、教育総務課と学校の双方で過剰使用がないかをチェックしていく。

学校においてこのような事態が発生して、市民のみなさまにご心配をおかけしたことに對して、本当に申し訳なく思っている。

【教育長】改めてご報告させていただいた。何かご質問等あればお願いしたい。

よろしいか。それでは、ただいま課長が申しあげたとおり、今後の再発防止に向けて努めていきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

事務局からそれ以外はよろしいか。

では、委員のみなさまから何かあったらお願いしたい。

【松田委員】学校の通知表について、南校と富田小しか知らないが、南校は1学期が終わったらもらう、2学期が終わったらもらう、3学期が終わったらもら

う。富田小学校は10月になるともらう。どっちがいいとは一概には言えないと思うが、学校によって違うのが違和感があるのだが、その辺はそれぞれの学校の校長先生の経営で変わるのか。

私自身の個人的な意見を言うと、毎学期もらった方が子どもの弱いところについて話ができる。今10月にもらうと、4月から始まって9月までの間、僕はわからなかったのかというように思う。また、通知表は、親と話をしている間に子どもがもらって帰ってくる。「先生に何か言われたの？」と聞いても「特に何も話はなかった」と言っている。通知表の話を教育委員会でしてはいけないのかもしれないが、ちょっと違和感があるので、どうなのかなと思って話をお聞きしたい。

【学校教育審議監】 委員もおっしゃったように、これは学校の判断で、そのような通知表の作成ということにはなっている。これも委員がおっしゃられたように、学期が終わった時に、1学期で何ができて、何がこの子に苦手なところなのか、それを夏休みにどうやってまた振り返るといいのかというようなことについては、保護者会は毎学期あるので、通知表はなくても、保護者会で具体的にそれぞれの保護者と学校が話をしているところである。

通知表については、いろいろ考え方もある。時間割等の時間数等の関係もあって、小学校でも前期後期で時間割が変わるというケースもあるし、中学校だと、例えば技術家庭とかそういう教科では、学期で時間割が変わるというよりも、前期と後期で時間割が変わるというケースも多いので、必ずしも学期と教育課程が一致しているとも限らないということもあって、その辺を学校で十分協議をして、都合のいいような付け方をしているという認識である。

最初に申し上げたように、子どもたちの、1学期にここができたなどか、これはちょっと難しかったなどというようにことについては、保護者会でしっかり保護者と相談をさせていただいて、夏休みを迎える、冬休みを迎える、というような形をとっているところである。

【松田委員】 家庭内でよく親と話せばいいのだと思うが、家によっては祖父母がほとんど保護者代わりという場合もある。ただ、保護者会へ祖父母が行くというのも、これもまた違和感がある。もっとよく話をすればいいのかもしれないが。途中で何かあるとお電話をしてくれたりとか、先生もけっこう配慮はしてくれている。いろいろご配慮はいただいているが、大野市全体の話になると、目が届く家と届かない家とがあると思う。成績表というのは、具体的に数字で表れてくるが、言葉で聞いただけではちょっとわからない場合もある。それと特に私は「日頃の行動の記録」を見させてもらって、もうちょっと家でこういうふうに躰をしないといけないのかなとか、保護者の反省材料にもなるので、できればその都度教えてもらえるといい場合もあるのではないかと思った次第である。

【教育長】 大野市の中で対応が違うということについては、やはり地域の方、保護者の方も通知表に限らず感じていることがあるかと思う。そういう違和感とか不安とか、そういうことをやはり持たれないように、しっかり説明をするなり、対応をすり合わせるなり、そういうことは必要かなと思う。学校の独自性を尊重しながら総合的に校長会等でも考えてもらう必要があるかなと今、改めて思った。

【羽生委員】 先日の学校訪問の時、校長先生の方にはお礼を申し上げたが、私事

にはなるが、市で歌のグループに加入していて、教育委員会を通して毎回コンサートのチラシと、コンサートの舞台上で使う大道具のワークショップのご案内をさせていただいている。今年初めて、陽明中学校から女子中学生が2名ワークショップに参加してくれた。参加した理由をお聞きしたら、「見たことも聞いたこともないような世界なので、どんな物を作って、どんな舞台になるのかなと思って来ました」ということで、1日、本当に手際よく、大道具を作っただけだ。「部活動はしていないの？」とお聞きしたら、「選択制になって部活の方は入っていないので、こういうことがあったら出てみようと思って今日参加しました」という嬉しいお声をいただいた。「これが舞台上でどういうふうに使われるのか、本番もぜひ見に来てくださいね」と言ったら、「ぜひ見に行かせていただきます」という大変嬉しい経験をさせていただいた。

こういうお子さんが部活動だけではなくて地域に飛び込んできてくれる、大人だけの見たことも聞いたこともないような世界にノックして来てくれたということが、グループ一同非常に嬉しくて、校長先生にはお礼を申し上げたが、こういうことがどんどんまた地域に広がっていくといいなと感じた。

【教育長】今、部活動の地域移行も進んでいるが、やはり地域の中での文化・スポーツ環境の整備というところが究極なのかなと思うので、本当に学校にある部活動だけでなく、いろんな形で地域の方々にお世話になったりサポートをいただいて、その子その子が望む、あるいは興味を持ったところへ飛び込んでいけるような、そんな環境が整いつつあるということに大変嬉しく思っている。今後ともどうぞよろしくお願ひしたい。

【松田委員】先日の土曜日に、上庄中学校と尚徳中学校の備品をみなさんにお譲りしたと思うが、携わった人は大変だったと思う。ご苦労だった。

その備品がどういうふうにも有効活用されていったのか、数値で表せるものなら教えてほしい。今日でなくてもいいので、もし教えていただけるならお願ひしたい。学校の備品としてこういうものが市民の方が持って行ってきて、使っただけというのがわかったら、また阪谷と小山の学校も閉校になると思うが、市では処分する部分は助かるはずなので、みなさんが望む物を出せたらいいと思う。来場人数はけっこう多かったように思う。ただ、開催案内を見ている人は見ていたが、見てない人はたぶん見ていないので、人数はけっこう来たが、こういうことがあるということをもう少し大きく広報したほうがいい。広報おおので知らせていただけではないのか。他にも出てたのだろうか。今から閉校される学校もあるので、こういう備品販売会があつてみなさんに使っただけなら、また「行ってほしい」と委員としてPRできるのではないかと考えたのでよろしくお願ひしたい。

【教育総務課長】今数字などをまとめているので、また次回に状況をご説明させていただけたらと思う。

【教育長】では、長時間にわたり慎重に審議いただき感謝申し上げます。

【閉会】

【教育長】これをもって、大野市教育委員会10月定例会を閉会する。

午後 5 時 0 0 分終了

令和 7 年 1 0 月 2 1 日

(松田委員)

(松谷委員)